学校番号	325

平成３１年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	生物基礎　改訂版　（啓林館）						
副教材等	センサー生物基礎　（啓林館）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

小・中学校での理科の学習を終えて、高校では人と自然について「遺伝子」、「恒常性」、「生態系」という観点で見ることによって、生物が生きるしくみ、子孫を残すしくみを学ぶ。どのように生き、行動すれば人と自然を大切にし、健康な生活を送れるのか？この問題を意識して学び続けることを目指す。

２　学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な見方や考え方を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生物現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・原則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ノートの記述	学習状況の観察 ノートの記述 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートの記述 実験の記録 定期考査の結果	学習状況の観察 ノートの記述 実験の記録 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	生物と遺伝子	生物の多様性と共通性	○				a:生物の多様性と共通性、遺伝現象とＤＮＡに関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 b:体細胞分裂の実験データより、細胞周期の時間を導き出せる。 c:顕微鏡の操作、実験データの記録、スケッチができる。 d:ＤＮＡの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解し、知識を身に付けている。	学習状況 ノート 実験 定期考査
		細胞とエネルギー				○		
		遺伝情報とDNA	○					
		遺伝情報の複製と分配		○	○			
		遺伝情報とタンパク質の合成				○		
2学期	生物の体内環境	体内環境と恒常性	○				a:体内環境について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 b:原尿と尿に含まれる物質の割合のデータから濃縮率を導き出せる。 c:自らの体を使って、心拍数の変化などを観察し、体内環境の維持を体験するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 d:体内環境の維持に自律神経とホルモンが関わっていることを理解し、知識を身に付けている。	学習状況 ノート 実験 定期考査
		体内環境の維持のしくみ			○	○		
		免疫		○				
3学期	生物の多様性と生態系	多様な植生と遷移		○		○	a:気候とバイオーム、生態系のバランスについて関心をもち、意欲的に探究しようとする。 b: 生態系の成り立ちと構成要素について具体的な生き物を挙げて考えることができる。 c:生態系と物質循環について観察、実験、資料収集などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 d:陸上には様々な植生がみられ、気温と降水量によって植生が変化することを理解し、知識を身に付けている。	学習状況 ノート 実験 定期考査
		気候とバイオーム	○					
		生態系とその保全	○		○			

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c: 観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。